

# 南会津 のりんニュース



## 今月の写真：「そばの花」(下郷町)

南会津地方では、そばが約380ha栽培されています。8月下旬～9月上旬頃には、そばの花が開花し、多くの観光客がそば畑を訪れます。

広大なそば面積を誇る下郷町猿楽台地のそば畑は、まさに圧巻です。

なお、来月は創刊から第100号を迎えます。記念特集を予定していますので、ご期待下さい!!

## 今月の内容：

- 今月のトピックス
  - ・ 新規就農者激励会を盛大に開催!!
  - ・ 森林と水の学習会を開催!!
  - ・ 田んぼの生き物調査を実施!!
- 集落営農情報
- 特集！  
南会津地方の大豆栽培
- 今月のコラム  
担い手不足
- 農林事務所からお知らせ

平成18年8月10日発行 福島県南会津農林事務所

## 今月のトピックス

### 新規就農者激励会を盛大に開催!!

去る7月6日に平成18年度南会津地域新規就農者激励会を南会津町南郷地区の南郷開発総合センターにおいて開催しました。

この激励会は、地域農業のリーダーである指導農業者と各認定農業者組織代表者、さらには行政、JA等との情報交換・懇談を通じ、新規就農者のスムーズな就農定着や地域における連携の促進をはかることを目的として開催しました。なお今回は、緑のふるさと協力隊員として伊南地区で活動している2名も参加いただきました。



まず、2名の新規就農者(南会津町渡部雄己さん、下郷町室井慎太郎さん)が自己紹介を兼ね自分の農業経営の概要や農業に取り組む意気込み等を披露し、これに対し地域農業のリーダー等より今後の地域農業の担い手としての歓迎や激励の言葉、農業経営のノウハウ等のアドバイスを受けました。

また、激励会終了後会場を移し、南会津農業青年クラブ主催で懇親会が開催され、農業青年クラブの会員やJA営農担当職員も加わり、総勢約30名が集

い、新規就農者等を囲み活発な情報交換や懇談により大いに盛り上がりました。

今回の激励会や懇親会を通じ、同じ地域の農業関係の仲間としてのつながりを強め、地域におけるスムーズな就農定着や連携の促進をはかる上で大変有意義なものとなりました。

(農業普及部)

### 森林と水の学習会を開催!!

地元の小学生や漁協と一緒にいわなの稚魚を放流し、森林の役割や水について学び遊ぶ学習会が、南会津森林土木協会青年部主催で6月28日(西部地区)黒谷川と7月4日(東部地区)水無川で行われました。

西部地区では朝日小学校の3年生11名、東部地区では田島小学校の4年生61名が参加し、晴天のもと、いわなの放流と川遊びを楽しみました。

森林の土壌をつくり、水がゆっくり染み込んでいき、ろ過される様子を観察することや模型により土石流を再現し水が土砂を押し流す様子、災害を防ぐ治山ダムの役割に興味を持って見てもらいました。



模型を使った土石流の再現

(森林林業部)



## 田んぼの生き物調査を実施!!

去る7月4日南会津町立上郷小学校(旧館岩村)において、全校生58名による『田んぼの生き物調査』が開催され、小学校周辺の田んぼと館岩川周辺で調査が行われました。

田んぼでは、トノサマガエルやクロゲンゴロウ等南会津地方では珍しい生き物が発見されたり、館岩川



周辺では、カジカやカジカガエル等水がきれいなところに住む生き物が発見されました。

子供たちは、わからない生き物があると、アクアマリンふくしまの春本宜範さんや農業総合センターの三田村敏正さんを大きな声で呼んで生き物の名前を確認したり、また、招かざる客のシマヘビ等がいるとキャー、キャー言って逃げ回っていました。

また、子供たちだけではなく先生方も生き物の見分け方などを確認していました。

(農村整備部)

## 県内の話題

### 建設業農業分野進出研修会

公共投資の減少により、建設産業を取り巻く経営環境が厳しさを増している中、新たな進出分野として「農業」分野を目指す建設業者を対象に、去る7月18日に福島県農業総合センター(郡山市日和田町)において、平成18年度建設業農業分野進出研修会(第1回)が開かれました(主催:福島県)。

本研修会開催の背景の一つには、昨年9月に農業経営基盤強化促進法の改正によって、市町村等が一般の株式会社やNPO法人といった農業生産法人以外の法人に対して農地の貸付けを行うことが可能となったことを受け、全国的に建設業者が余剰労働力の有効活用を図るために、農業経営を開始する事例が増加している状況があります。

本研修会では、①農業参入にあたって(背景、メリット、注意点等)、②農業に参入する形態について(どのような形態で参入できるのか等)、③各種支援関係(どのような制度資金があるのか等)について講義がなされました。

県内各地から約70社の建設業者が参加しましたが、各参加者とも熱心に勉強していて、農業分野進出への関心の高さが伺えました。

(地域農林企画室、農業普及部)

## 集落営農推進情報

ひとりで悩んでいないで、  
集落みんなで  
話し合ってみませんか?

只見町では、7月18日から8月3日まで農業・農村対策説明会を各集落で開催し、①集落営農の推進、②品目横断的経営安定対策、③農地・水・環境保全向上対策などについて説明し意見交換を行いました。

現在、農村では農業者の高齢化や担い手の減少、集落機能の低下などの問題を抱えており、その解決策として「ひとりではできないことを、集落みんなの力で解決しよう」と集落営農を推進しています。その結果、昨年度は熊倉と二軒在家の2集落で集落営農体制の構築に向け、集落の農業や農地をどう守っていくのかを話し合い調整する組織として営農改善組合(農用地利用改善団体)が設立されました。

また、二軒在家では本年4月に農作業受託組織



説明会での様子

が設立されたことを5月号で紹介しましたが、熊倉営農改善組合でも6月9日に総会を開催し、改正農業経営基盤強化促進法に基づく農用地利用規程の見直し作業が行われました。そして、今後は住民の意向調査を行い集落内の問題点を話し合いながら、出来るところから改善を図っていくことになりました。

集落営農は、ひとりでは解決できない問題を集落みんなで話し合い、出来るところからひとつずつ改善・実現する方法です。あなたの集落でも、まずは話し合いから始めてみませんか!集落営農についてのご相談は、南会津地域集落営農推進協議会(事務局:農業普及部)まで。

(農業普及部)



## 新たな動きが活発です!! 南会津地方の大豆栽培

大豆は、水田農業改革を進める上で重要な作物となっています。南会津地方では、約141ha（平成17年度農林統計面積）の大豆が栽培されていますが、自家消費のものが多く、販売・流通向けの大豆は少量になっています。そのような中で、南会津町田島地域の川島地区・南郷地域の和泉田地区・伊南地域の大桃地区などでは機械施設の導入等を図りながら、積極的に大豆の生産に取り組んできました。

県では、大豆の生産拡大と品質の向上に向けて各種支援事業を行っており、今年度、下郷町十文字地区において「地域ぐるみ大豆生産拡大事業」が実施されています。この事業は、集落を単位とした地域的なまとまりで大豆生産を行い、集落営農への足がかりとするものです。下郷町十文字地区では「十文字大豆加工生産組合」が設立され、今年度は約2haの作付がありました。



(写真上)「十文字大豆加工生産組合」大豆ほ場



「農業・食品産業連携産品開発交流会」  
 (写真上) 地元産大豆を使用した豆腐等の試食  
 (写真下) 厚揚げ(おすすめ原料)

数年前から、地産地消や食の安全といった考え方が重視されるようになっていますが、地元産の大豆を使用した豆腐等の加工にも大変関心が高まっています。

昨年度実施された「農業・食品産業連携産品開発交流会」(南会津のうりんニュース 平成18年3月号に記載)では、南会津産の大豆を原料に豆腐や厚揚げが試作され、試食した方からの感想によると、大変好評でした。

今年度十文字地区で生産された大豆も、下郷町の豆腐店などが加工し、地元産大豆を使用した安全・安心でおいしい豆腐となって販売される予定です。

農業と食品産業の連携といった面からも、今後ますます大豆生産の拡大が期待されます。

(農業振興部、農業普及部)



# 担い手不足

今年乞われて10年ぶりに町内会の会長になりました。

13年前に家を求めたのですが、当時は次々と家が建ち爆発的に戸数が増え顔も知らないことから近所付き合いなど無いに等しい現状でした。

そんななかで、新居は今まであった町内会に組み入れられ、戸数が300に迫る大町内会となりました。

仲間意識が希薄なことから、町内会主催の行事へニュータウンからの参加者は少なく共同作業で行う側溝清掃等は成立しにくい状況でした。

そのため、行政当局より町内会を分割し適正な規模、面積で町内会を再編するよう要請されました。

そして、町内会を旧町内会とニュータウンを2つに分割することとし、そのひとつの町内会の初代

会長となったのです。

自治会活動は「自助・互助・公助」のまちづくりと言われますが、住民の理解と協力なしではまったく機能しません。無い無いづくしのなかで仲間を集め始めた町内会活動でしたが、なかでも側溝清掃はご近所をま

わり説得し出役をお願いした思い出があります。

今年も側溝清掃は行われたのですが10年の歳月は住民を確実に老いさせ、重い蓋を上げる人が激減してしまいました。

子供達が成長し家を離れ、夫はバブル崩壊後の不景気で工場の移転や統廃合により単身赴任といった家庭が多くなったためです。

現在仕事では農地・水・環境保全向上対策の集落説明で「地域一体となって水路の管理をして下さい。」と言っておりますが、農村部の集落も都市部の町内会も、用水路と側溝の違いはあるものの共に水に関わり、高齢化、担い手の問題は同じように議論され、同じ悩みを抱えています。

(農村整備部長 豊田 裕)

## 農林事務所からお知らせ

### 「うつくしま農林水産ファンクラブ」 会員募集

現在、福島県では、“新鮮・おいしい・安心”な県産農林水産物をはじめ、古くから地域に伝わる伝統料理や次世代に伝えたい食文化を見つめ直すことにより、県産農林水産物等のすばらしさを実感し、その良さを広くPRしていただくため「うつくしま農林水産ファンクラブ」を運営しております。

今後とも、県民の皆様の参加・協力を得て、地産地消をより一層全県的に推進するため、このたび新たに広く会員を募集いたします。

### 応募項目

- (1) 消費者ファンクラブ会員
- (2) 生産者・販売者(店)ファンクラブ会員
- (3) 飲食店(宿泊施設も含む。)ファンクラブ会員

### うつくしま農林水産ファンクラブ会員の特典

- ・「会員証」の発行
- ・「うつくしま農林水産ファンクラブ通信」等の情報提供
- ・情報交換会・体験学習会等に参加いただけます。
- ・会員へ農林水産物に関するアンケートを実施し、会員の皆様の声を市町村、関係者等へお知らせします。

※会員募集に関する詳細については、お気軽に「地域農林企画室」にお問い合わせ下さい。



### お問い合わせ先はこちら

〒967-0004  
 福島県南会津郡南会津町田島字根小屋甲4277-1  
 南会津農林事務所 地域農林企画室  
 電話 0241-62-5866 FAX 0241-62-5256  
 電子メール minamiaizu.nourin@pref.fukushima.jp  
 ホームページ <http://www.pref.fukushima.jp/norin-minamiaidu/>



みなさんのご意見・ご感想をお寄せください。



この広報誌は古紙配合率100%再生紙とSOY(大豆油)インキを使用しています。